

もりかわ通信

平成25年度 第12号 1月16日 発行
岩手河川国道事務所
盛岡出張所
〒020-0862
盛岡市東仙北一丁目11-11
TEL 019-636-0444
FAX 019-636-1047

中津川、歴史を感じるさんぽ道



上の橋から下流を望む



27代利直公の刻銘



擬宝珠には二種類の形があります

盛岡の街を散歩していると、古き時代をほうふつとさせるような情景に出会います。盛岡の中心を流れる中津川にかかる、下の橋や上の橋はそういった雰囲気をかもし出しており、備わっている擬宝珠はいっそう歴史を感じさせるアイテムの1つになっているのではないのでしょうか。

この青銅製でつやのある擬宝珠は、国の重要美術品に指定されており、よく見ると1つ1つに南部藩時代のお殿様、利直の刻銘が記されています。その歴史は南北朝時代、南部家12代政行公が天皇の前で読んだ和歌がほめられ、京都の加茂川三条大橋の擬宝珠を授けられたことにさかのぼります。そののちの27代利直公が盛岡築城の時、三戸城下の黄金橋から上の橋に取り付けられました。今から400年も昔のことです。

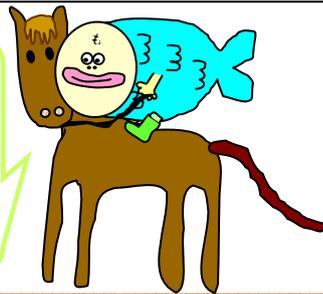
天皇に由来し銘が刻まれ、現在でも橋に取り付けられたままの擬宝珠は、国内で京都三条大橋、盛岡上の橋・下の橋のみなのだそうです。

この辺りを通る機会がありましたら、間近でごらんになってみてはいかがでしょうか。

擬宝珠の形の由来は色々あるんだ。

たとえば

- ① 仏教における釈迦の骨壺の形
- ② 竜神の頭の中から出てきた珠
- ③ 地藏菩薩などの仏像が手のひらに乗せている物
- ④ ネギの独特のにおいが魔除けになるので、葱坊主の形になったなどと伝えられているよ。



下流の遊歩道から上の橋を眺める

今年も御堂観音にお参りしました

～泉と男と御堂観音～

年明け、北上川の安全を祈願するため、盛岡出張所では今年も北上川源泉の地、御堂観音を訪れた。神社周辺は解けずに積もり固まった雪があったものの、源泉である「ゆはずの泉」は凍ることなく、たおやかに水をたたえていた。

そんな中、出張所の一係長は神社の大きな鐘をゴーンと鳴らしながら「去年は鮭も助けだし、鮭の恩返してこともあっかもな～（もりかわ通信第9号参照）。今年は無事な年にしてあげようとお観音様が思ってけでるんでねえがな（うふふ）」と一人ごちていた。観音様は「おいおい、鮭は中津川だったろう。」と、苦笑されたのだそう。

何はともあれ今年が良い年でありますようにと、一同が願う年始めであった。



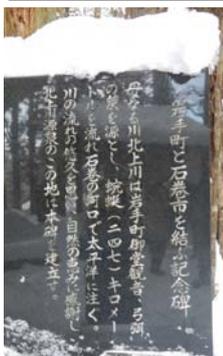
鐘をつく出張所係長



通称 御堂観音



ゆはずの泉にも祈願します



北上川源泉「ゆはずの泉」の由来

～北上山新通法寺正覚院 in 岩手町御堂～

平安時代、源頼義・義家父子率いる朝廷軍が、この地方の安倍氏を打つため軍を率いていた時、飲み水もなく疲れ果てた兵馬が苦しみ始めていました。そこで義家が観音菩薩に念じながら、大杉の根元を弓弭（『ゆはず』弓のつるをかける先端部分）で突くと水がわき、皆で飲んだところ生き返ったようにみるみる元気になり、戦に勝ったと言われています。

～この記念碑は、北上山水神の隣に建てられています。